

施策の柱2.2 生物多様性の保全方針の策定

目標7

「(仮称)茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」を平成24年度(2012年度)までに策定し、市域の生物多様性を保全していきます。

【目標担当課: 景観みどり課】

目標8

生物多様性の保全・再生のためのガイドラインを平成24年度(2012年度)までに作成し、市民・事業者等への周知を図っていきます。

【目標担当課: 景観みどり課】

■目標7の進捗状況

未策定

■目標8の進捗状況

未策定

■目標の進捗状況に対する中間評価(平成23～26年度)

評価	順調でない
目標年度をすでに経過している中で、策定には至っていません。 平成27年度から29年度にかけて予定している自然環境評価の調査結果を活用して平成30年度以降に具体的な検討を行い、みどりの基本計画と調整を図りながら平成32年度の策定を目指します。	

■目標の妥当性の検証と見直しの必要性

見直し	必要
目標年度をすでに経過していることから、目標達成時期の見直しを行う必要があります。	

生物多様性とは？

3つのレベルの多様性があります。

①生態系の多様性(たくさんの種類の自然環境があること)



谷戸地形(樹林など)



海



河川



草地



細流

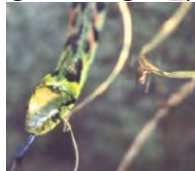
②種の多様性(たくさんの種類の生きものがいること)



ニホンアマガエル



シオヤトンボ



ヤマカガシ



トゲナナフシ

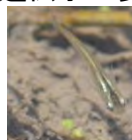


モズ



カマツカ

③遺伝子の多様性(たくさんの個性があること)



メダカ



ゲンジボタル

同じ種であっても遺伝子は違います。

遺伝子が多様にあることで、環境の変化や病気の蔓延などによる絶滅の可能性が低くなります。

メダカなどの淡水魚は本来、生息する川の水系で遺伝子が異なります(例: 小田原メダカ(酒匂川水系)、藤沢メダカ(境川水系))。また、ゲンジボタルは関東では4秒間隔で点灯し、関西では2秒間隔で点灯します。

重点施策19 生物多様性の現況調査と「（仮称）茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」の策定
20 生物多様性の保全・再生のためのガイドラインの作成

■**施策の概要**

・「（仮称）茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」を策定し、協働によって推進します。策定にあたっては、自然環境評価調査の結果を基礎データとした現況調査を市民参加により実施し、本市における生物多様性の現況や人との関わり状況、取り組みの現状等を把握します。

・公園や住宅地、街路樹等を含めた市内のみどりの保全・再生や、土地改変などの際に生物多様性に配慮した環境整備を促すためのガイドラインを作成します。

・定期的にモニタリング調査を実施し、適宜内容の見直しを図ります。

■**平成26年度の取り組み**
①「（仮称）茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」の策定と協働による推進

事業名	取り組み結果	担当課
「（仮称）茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」の策定およびガイドラインの作成	・自然環境評価調査の調査結果（平成29年度取りまとめ予定）を考慮して、平成30年度以降に内容を検討するため、本格的な検討は実施していません。	景観みどり課

②市民参加による自然環境評価調査の実施と、本市における生物多様性の現況等の把握

事業名	取り組み結果	担当課
ビオトープと生態系管理入門	・茅ヶ崎の自然環境やビオトープについて知り、生態系管理の基礎や先進的な事例について学習する連続講座として実施しました（自然環境評価調査員の養成も兼ねて実施、年5回、参加者のべ89人）。 ・アンケート結果では「自然を守ることの大切さ、大変さがよく分かった」、「作業はただやればよいということではなく、手作業が大切なことがわかった」、「生物多様性に配慮した保全・再生はどういうことなのかの話が聞け、作業体験もいろいろ考えながら楽しくできた」、「失ったものをもとに戻す大変さがよく分かった」などの回答があり、茅ヶ崎の自然環境や生態系管理の方法について理解を深めていただけたことがわかりました。	景観みどり課
市職員によるモニタリング調査	・コア地域や保存樹林など17箇所（のべ25回）実施し、各地の状況を把握しています。	

■**平成26年度予算執行状況**

事業名	26年度予算額	26年度決算額	（参考）25年度決算額	担当課
ビオトープと生態系管理入門（再掲）	80千円	80千円	60千円	景観みどり課
合計	80千円	80千円	60千円	

■**成果・課題と評価**

成果	評価
・生物多様性の現況などの把握のために、市職員によるモニタリングを随時実施しました。 ・「ビオトープと生態系管理入門」については、平成27年度から実施予定の自然環境評価調査の調査員養成も兼ねて実施し、評価調査の準備を進めました。	E
課題	A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし（評価不能）
・「（仮称）茅ヶ崎市生物多様性地域戦略」の策定および生物多様性に係るガイドラインの作成については、自然環境評価調査の結果を考慮して実施するため、平成30年度以降に本格的な検討を開始することとしましたが、それまでに県や近隣市町の状況や先進事例を調査するなど準備を進めておく必要があります。 ・ビオトープと生態系管理入門の参加者が平成27年度から実施予定の自然環境評価調査に協力していただけるよう、働きかける必要があります。	